

# 心にひとひ

弥富市立桜小学校  
学校だより  
No.21  
平成28年2月18日

## とても温かな学級集団一涙が出てきます

2月16日（火）の給食時間のことです。2年松組の教室は、担任がお休みでしたが、子ども達が、配膳台の横に並んで着々と給食の準備をしていました。この日の献立は、しょうゆラーメン、ごまずあえ、てづくりアップルパイ、牛乳でした。2年生ともなれば、担任がいなくても、自分たちでいつも通り、整然と配膳が進んでいきます。A子さんの番になったとき、A子さんの手からトレイが滑り落ちてしまい、ラーメンの汁が床にこぼれてしまいました。

すると、次の瞬間、すかさず数人の子が、A子さんの周りに集まり、「だいじょうぶ」と声をかけながら、落ちてしまったラーメンの具を拾ってくれました。素手で拾ってくれた子もいました。

何と友だち思いの優しい子達でしょう。温かな援助の手が、ごく自然に、当たり前に見えるクラスの雰囲気ができあがっています。わたしは、その光景にふれ、感動の余り、担任にそのときの様子をメールで伝えました。

しばらくして、担任からは、**「うれしくて涙がでます。本当に優しい子達なんです。わたしは、幸せだなといつも思います」**という、返信がありました。

先生と児童の深い信頼関係、友だち同士の温かい絆が感じられた、とても幸せな一日でした。わたし自身も、桜小学校の教職員と児童に感謝したいと思います。



## 「行ってきます」の一言に、ほのぼのとした温かさを

火曜日の交通指導（挨拶運動）は、前ヶ須町西勘助の交差点に立ちます。先週の出来事です。交差点に立っていると、交差点の東側で高校1年生の女生徒（桜小出身）B子さんが、信号待ちをしていました。右目には眼帯をしていました。

「どうしたの・・・？」

「けがをしました」

「だいじょうぶ？」

「だいじょうぶです。行ってきます」

こんな会話が続いた後、B子さんは、軽快に駅の方に自転車を走らせていきました。

家族以外の近所の方や地域の方に、「行ってきます」「行ってらっしゃい」「ただいま」「お帰り」といった挨拶を交わすことは、わたしの小学生のころは、当たり前のことでした。

「おはようございます」「こんにちは」の挨拶もできない人が見られる昨今、B子さんの**「行ってきます」**の最後の一言にふれ、**桜学区に残る地域のつながりとほのぼのとした温かさを感じることができました。**

